

戸川幸夫
愛犬放浪記



愛犬放浪記

戸川幸夫



東都書房

昭和36年 8 月 5 日
第 1 刷 発 行
© 戸 川 幸 夫 1961



愛 犬 放 浪 記

著 者	戸 川 幸 夫
発行者	西 村 俊 成
印刷所	文 弘 社
発行所	東 都 書 房

東京都文京区音羽町3の19
振 替 東 京 7 2 7 3 2
電 話 大 塚 (941)

代 表 3 1 1 1

¥ 290

落丁本・乱丁本は発行所で
おとりかえいたします。

(製本文信社)

犬

林美美子さんの

「放浪記」とわが愛犬

大倉喜八郎翁と愛犬アカ

行方不明になった

愛犬ジャック

泥棒は隣家のご主人

直木賞作品「高安犬物語」余談

胸をつかれる

愛犬「太刀号」の思い出

熊狩りと日本犬

猪犬と樺山大将

日本犬の戸籍調べ

土佐の闘犬

咬まれ屋の横行

狼と山犬

狼とヤマイヌ

送り狼

山犬を捜して

ヤマイヌは現存しているか

アンダーソンとヤマイヌ

お犬さま

骨骼異聞

ヤマイヌの穴

猿

雪山に野猿を追って

猿は拜むか

猿の社会

猿と狐の交尾

猿酒の話

猿と蛇

猿になめれた名主様

その他の動物たち

仏法僧の話

黄金の鯉をつくった男

二号さんの名をもらった大鯉

牛の一と突き

わが家の猫騒動

ネズミの知恵

布団を食べるナキウサギ

トドの天国

蛇は馴れる

毛虫と喧嘩した話

天狗と山男と山女

山の怪異

戸川幸夫

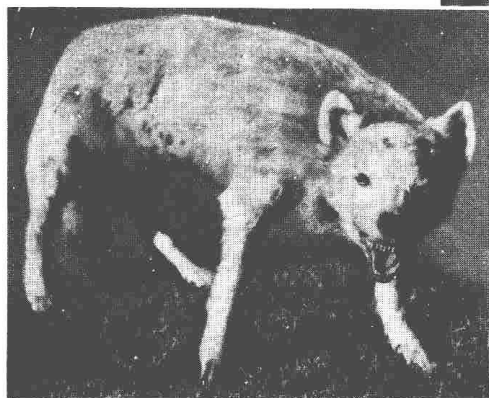
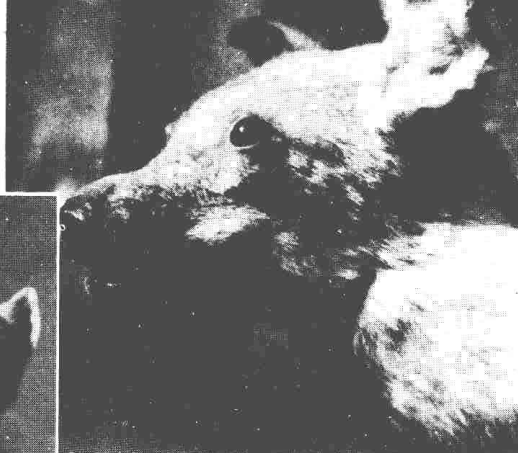




犬は 狩場では人の家来ではない。一人の
狩人として生命がけで闘う。

(群馬県武尊にて。三十一年四月著者撮影)

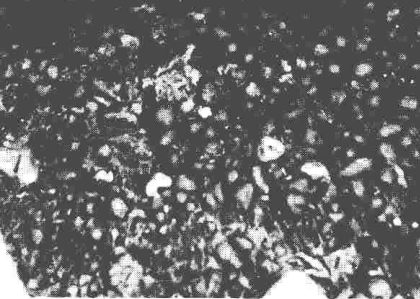
→
ニホンオオカミの顔。俗に
ヤマイヌといったもの。こ
れは上野科学博物館の剥製



北海道にいたエゾオオカミ。↑
北大博物館の剥製。ニホンオ
オカミと共に珍しい剥製で
ある。



←
時の写真
山形、福島
の県境の吾妻山で捕えられた白猿、上野動物園に送られて飼育されていた。これは捕えられた当



↑ 吾妻山中、サルの穴の表と
中。内部には糞（上図）が →
一面に散らばっていた



目

次

犬

林芙美子さんの

「放浪記」とわが愛犬

大倉喜八郎翁と愛犬アカ

行方不明になった

愛犬ジャック

泥棒は隣家のご主人

直木賞作品「高安犬物語」余談

胸をつかれる

愛犬「太刀号」の思い出

熊狩りと日本犬

猪犬と樺山大将

日本犬の戸籍調べ

土佐の闘犬

咬まれ屋の横行

狼と山犬

狼とヤマイヌ

送り狼

山犬を捜して

ヤマイヌは現存しているか

アンダースンとヤマイヌ

お犬さま

骨骼異聞

ヤマイヌの穴

猿

雪山に野猿を追って

猿は拝むか

猿の社会

猿と狐の交尾

猿酒の話

猿と蛇

猿になめれた名主様

その他の動物たち

仏法僧の話

黄金の鯉をつくった男

二号さんの名をもらった大鯉

牛の一と突き

わが家の猫騒動

ネズミの知恵

布団を食べるナキウサギ

トドの天国

蛇は馴れる

毛虫と喧嘩した話

天狗と山男と山女

山の怪異

装幀 清水 勝
カット

愛犬放浪記

犬



昭和八年の晩秋――。

そのころ僕は山形高校（旧制）の生徒であつた。一年間の寮生活を終えて、市の北郊を流れている馬見カ崎川の河原に近いしもたやに下宿していた。

埋立地区と呼ばれていたこのあたりは、田圃や河原を埋めたてて町づくりがなされたのであろう。道路は広く、並木は整然としていて、家々も新しかった。ただ現在と違ってそのころは放送局もなく、家もまばらで、下宿の周囲も畑地と果樹園とがまじり合っていて、河原に出てみれば水の消えた石河原がずっと続き、葉の落ちた雑木林と、遠くには薄墨で描いたような杉木立が広がっていた。

その森のさらにはるか向こうに利鎌の刃のような鋭い陵線を見せて雁戸山がんとさんが浮び、雨のあとともあればその尾根を銀白に輝かせていた。

荒涼とした風景であつた。

僕が下宿していた部屋は二階の、道路に面した六畳で、そこからは前の家の瓦屋根を超えて河原の一部とさかすまやま盃山が望まれた。

部屋の左手、廊下側の窓を開けると果樹園で、まっ赤な林檎が手のとどくところに熟うれている。